

令和5年度第2回富山県手話施策推進協議会の主な意見

日時：令和5年12月1日（金）午後3時～午後4時30分

場所：富山県庁4階大会議室

議題：（1）第5次富山県障害者計画及び富山県第7期障害福祉計画（第3期障害児福祉計画）における手話の普及等に関する施策（素案）について
（2）その他

委員からの主な意見

（1）聴覚障害（児）者への支援について

- ・ 字幕や手話がまだ付けられていないニュースがあるので、安心して生活が送れるよう、是非放送局に働きかけていただきたい。
- ・ 避難所での情報提供として、デジタルサイネージの設置をご検討いただきたい。
- ・ 災害が発生した時のために、地域の聴覚障害者と手話奉仕員養成研修受講者をマッチすることで、情報支援をできるようにしてはどうか。
- ・ 当事者が「選択」できるようにライフステージやライフスタイルに応じた支援ができる社会を目指すべき。

（2）難聴児支援について

- ・ 難聴児の早期発見、早期支援早期療育のため、難聴児支援協議会の委員に当事者団体も入れていただきたい。
- ・ ライフステージに合わせて、関係機関と連携をとりながら切れ目のない支援をしていただきたい。

（3）手話通訳者について（健康や雇用等）

- ・ 現在、県専任手話通訳者は非常勤となっているが、身分保障のため、正職員化としての配置をご検討いただきたい。
- ・ 手話通訳者の健診について、県内に専門医がいないことから県外の医師に依頼している状況。手話通訳者の健康維持のため、県内に専門医がいれば非常に助かる。
- ・ 手話通訳者養成研修や試験、手話奉仕員の受講者を増やすために、市町村と連携して手話に関わる方が集まる場を設けてはどうか。

（4）手話の普及について

- ・ 学校でも手話の普及や理解のため、簡単なコミュニケーションが身に付けられるように、テキストを作成して先生方や生徒が学べるようにしていただきたい。